

# 帝王切開について



帝王切開は誰でもなる可能性のあるお産方法です。

手術は怖いイメージもあるかと思いますが、あらかじめ手術にともなう処置や注意事項についてご覧いただきたいと思います。

## <手術前日>

- お腹の毛剃り
- 浣腸（必要時）
- シャワー

## <手術当日>

- 点滴開始し、尿の管を入れます
- 手術の10分前には手術室に入室します
- 入室時、名前の確認をします
- 手術台に上がり、術衣を脱ぎます
- モニター類を装着し、血栓予防のため両足にマッサージ機をつけます

## <麻酔のための体位>

- 医師が背中中の消毒を行い、麻酔の針を刺してお薬を入れます
- 薬が入ったら、腰を浮かさないように仰向けになります

※手術時間は、約60分です。



ベッドが狭いため看護師が必ず側で支えながら行います

## <手術終了>

- ストレッチャーで病室へ帰ります
- モニター類を装着し、全身状態を観察します
- 手術後の全身状態、子宮収縮の状態の観察の為、定期的に訪室します
- 定期的に痛み止めの点滴を行います。痛みが強い場合は適宜坐薬か注射を行います
- 初めての飲水はスタッフが側に行います ※入院時ストローを持参してください
- 血栓予防のために、麻酔が醒めたら積極的に足の運動をしましょう

# 帝王切開の傷あとケア

帝王切開の傷のある部分は、  
傷あとが残りやすい部位として知られています。

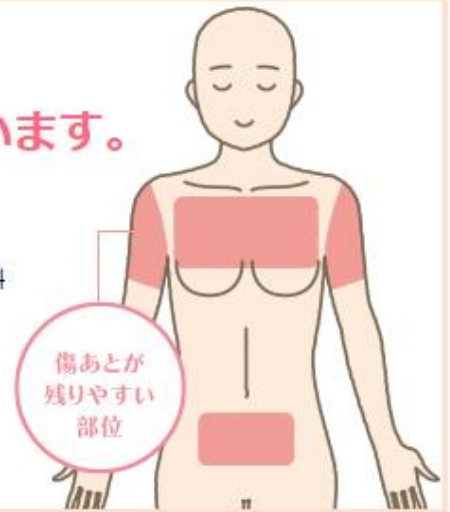
ひこうせいはんこん

肥厚性瘢痕やケロイドと呼ばれる状態になることがあり、かゆみ・痛み・引きつれ等の症状が生じます。



## 肥厚性瘢痕

【提供】  
日本医科大学 形成外科  
主任教授  
小川 令先生



## 目立つ傷あとになる要因

- 体質
- 紫外線
- 傷あとへの伸展刺激
- 衣類等との摩擦
- テープをはがす時の刺激



傷あとの周りの皮ふが引っ張られる刺激によって炎症が起きます。

手術の傷(縫った傷)は、体質、傷あとへの刺激(伸展刺激や衣類との摩擦、紫外線、テープをはがす時の刺激)などにより、目立つ傷あとになることがあります。

その中でも、傷あとを伸展刺激(皮ふを伸ばさないこと)から防ぐことが重要です。

アトファイン™/傷あとケアテープ™は、タテにもヨコにも伸びにくいテープなので、伸展刺激を抑制できます。

しんてんしげき まさつしげき  
伸展刺激・摩擦刺激・紫外線・はく離刺激から傷あとを守る

**アトファイン™ / 傷あとケアテープ™  
を使ってセルフケア**



傷口が閉じた直後から最低でも3か月間、傷あとが肌の色に近くなるまでケアを続けましょう。

